

令和八年度一般選抜(前期日程)

国語(文学部)

標準解答例

「国語・現代文」野口雅弘『中立とは何か マックス・ウェーバー「価値自由」から考える現代日本』から出題。文章の指し示す内容、筆者が言及する「価値自由」について、適切に理解、表現する力を問う。

一 (45点)

問1	どの政党のどの政策を	に抜き取られている。
問2	(ウ)	
問3	政治的に中立であろうと対立や党派性を回避することは、社会において影響力を持っていて勢力の言動を黙認することにつながり、中立的な態度が政治的に濫用されることで、結果的には政治的な態度をとっていると見なせるため。	
問4	ウェーバーの価値自由は、主体の価値判断を対象へ直接導入することを禁じる点において倫理的な中立を求めているようにも見えるが、それはさまざまな価値の対立に対していずれから距離を置くという意味での中立ではなく、自分が何らかの価値に関与している党派性を自覚しながら対立を認めつつ、さまざまな対立する価値を比較検討する中で、自分の価値を明確にする考えである。	
問5	たとえ親密な間柄であっても意見の相違点を認識し、正面から向き合って対立の要因を検討し判断するという辛い経験を習慣的に実践して積み重ねてゆくことで、決めることが難しい時代に自分の意見を持てるようになり、討論する政治文化が育つため。	
問6	「党派性」とは、価値の対立によって個人や集団間で主義・主張が異なり、特定の派閥を形成することを指す。地球温暖化問題を例に挙げると、自らの将来や未来の子孫のために温室効果ガスの削減に積極的に取り組むべきだと主張する団体や企業、国家があるのに対し、対策に要する設備のコストや事業縮減に伴う経済活動の停滞を理由に、消極的な姿勢をとる企業や国家もある。現代の政治教育においては、中立性を理由にこのような党派性の対立までは十分に扱えていないと言える。	

大問2

問1 ① 言葉にできないほど美しくして

② 懇切に申し上げなされたので

問2 X 完了の助動詞「り」の已然形

Y 完了の助動詞「ぬ」の命令形

問3 頼義は、九郎の出で立ちが先日と同じではないかと指摘し、九郎は、これはそれとは別のものだと言った。

問4 若い者たちが九郎の真似をして、華美な武具を所有しようとする、家計が苦しくなり、有能な家来を雇えなくなる。その結果、敵に負けてしまうことになると思ったから。

問5 ア 見た目よりも、材質や性能といった実用的な点。

イ 見た目が派手であると、敵がまず目をつけて打ってかかり、思いがけず命を落とすこともあるから。

問1

- ① 払いようもなく辛かったよ
- ② 得意になって振る舞うのである
- ③ 気味が悪く恐ろしいとお思いになる

問2

長い道のりなのに昨夜は帰らされたが、今夜は帰らせないでほしい。

問3

良くない物の気配がするのを発見し、通り過ぎがたく思ったため。

問4

男君から送られてきた、濃い緑色の紙で奇妙に良いにおいのする手紙と思っていたものが、今見ると実際には大きな蓮の葉であり、恐怖を感じたため。

問5

狐などの獣たちが、人の魂に取り憑いて惑わし、悪くすると魂を取られるような事態。

「国語・漢文」『蛸洲餘珠』から出題。基本的な漢文読解の力を問う。

四 (45点)

問 7		問 6 病に臥せっていた自分を家族がここに担ぎ出してくれたことと、地獄の役人だと思っていたのは実はどろぼうであったことから、実際には死んで地獄に落ちたわけではなかったことを知った。	問 5 因りて語るに夜来(の)大焼(の)事を以てす。	問 4 傍(ら)に老叟の亦た火を避くる者有り。	問 3				問 2 どろぼうが箱のふたを斧で壊して開けて見ると、中には金品ではなく、人が入っていたことに驚いたため。	問 1 家人はあわてうるたえて、その者を箱に入れて郊外へ運び出した後、再び家財を搬出するために家へ戻ったので、その箱を見張る人はいなかった。
㉔	㉓				き	り	ま	高		
すなは(わ)ち	すでに				叫	、	、	熱		
					んで	黒	気	で		
				いた	煙	が	寝			
				た	が	付	て			
				た	立	く	い			
				め	ち	と	て			
				。	こ	周	な			
					め	り	り			
					、	は	ゆ			
					人	大	き			
					々	火	を			
					が	が	知			
					大	燃	ら			
					声	え	な			
					で	さ	い			
					泣	か	ま			